

戀と武士道

(五卷)

原作者 帝キネ小阪映畫
 總監督者 田中健三氏
 監督者 中川紫朗氏
 撮影者 廣瀬吾郎氏
 保田庸氏

主要役割

沖津三郎 嵐 瑠 徳氏
 小夜子 松枝 鶴子嬢
 城主雅樂頭 坂東 豊昇氏
 河瀬吉之丞 嵐 笑三氏



尾上 紋彌氏

乳母の子芳之助
 (略筋。省略)

廣瀬吾郎氏獨立第壹回作品で、戀の葛藤から起ころ敵討を主題に宿命的な人生の悲劇を描いたものであるが、譚りけ筋の運びが滑らかな丈で、大した新味も見出せないが、俳優の力強い演技に依つて可成りこの映畫の價値を高めて居る。廣瀬吾郎氏の監督は中川紫郎氏の長所を利用して居る。機能的監督振り活氣があつた、ラストの夜間撮影など印象に残る。嵐、瑠、徳氏の沖津三郎は、氏の力強い演技は素晴らしい。後半は殊に好く、小百合之助を武藝にかこつけ激勵する邊りの熱のある演出は、氏ならではの、松枝、鶴子嬢の二役は美しき演技も充分スターとしての價値を見出せる。評者は我映畫界の多事なる時、映畫女優として有望なる要素を持つ環の未來を期待して待つ。(六月五日 大阪映畫俱樂部)

—山本 綠葉—